

知的障害特別支援学校における学習評価に基づく授業改善

児童生徒の個の特性に配慮した協働的な学びの実現を目指して

○滝澤健 福家美香 惠羅修吉

(香川大学教育学部附属特別支援学校)

KEY WORDS: 知的障害, 特別支援学校, 授業改善

I 目的

本校では、児童生徒の協働的な学びを実現することが自立と社会参加のための資質向上に資すると考え、授業改善に取り組んでいる。研究授業前後の授業検討会では、本校作成の「授業デザインの羅針盤」を活用して協議を行った。検討会での意見の多くは、指導者の動きや教材・教具、教室環境などの支援方法に関するもので、児童生徒の個別の目標に対する事前事後評価を根拠にした意見は少なかった。また、授業において協働場面の設定自体が目的化することや児童生徒同士のやり取りが形式的になりやすいなどの課題があり、一人一人のコミュニケーションスキルや社会性の獲得状況を捉えて支援するには、個別の学習状況の評価(以下、学習評価)の視点を重視する必要があると考えた。

本研究では、授業検討会に複数教員による児童生徒の個別の学習評価を導入することにした。授業検討会における学習評価の導入が授業改善に及ぼす効果について検討することを目的とした。

II 方法

(1) 本研究(28年度)の取組

各部年3回(7, 12, 1月)の研究授業を計画し、授業づくりのPDCAサイクルに則り改善を試みた(図1)。Plan(目標設定)とCheck-Action(評価・改善)に焦点をあて、Planでは各部で検討した「協働的な学びを通して育てたい力」を基に、各研究授業の目標や対象児の評価規準を設定した。Check-Actionでは事前授業後と研究授業後に授業検討会を設定した。授業検討会では児童生徒の学習評価と支援の改善案を検討した。本稿では事前授業について報告する。

(2) 授業検討会

各部で授業を撮影したビデオ映像を複数教員(8名程度)で視聴し、対象児の評価規準を基に学習評価を実施した。まず教員個々に評価とその根拠となる児童生徒の様子を付箋紙に書き、全体で評価をすり合わせた。評価規準に達していない児童生徒については、支援の改善案を検討した。

(3) 授業検討会における討議記録の分析

7月と12月の討議記録(小/中/高=2/2/1の計5回;総発言数149)を、「支援方法」「児童生徒の実態・評価」「両方に関連」で分類し、過去2年間の研究授業後の討議記録(小/中/高=4/4/3の計11回;総発言数138)と比較した。

(4) 評価シートの作成

授業検討会で出された意見(学習評価の結果、改善案)を整理し、そのプロセスを可視化するための評価シートを作成し、教員間で共通理解を図るようにした。

III 結果

(1) 授業検討会における意見の変容

28年度と26・27年度の討議記録の意見の比較を図2に示す。授業検討会に参加した全教員が、児童生徒の学習評価を実施することができ、児童生徒の実態・評価に関する意見が増加した。支援方法に関する意見は減少し、両者を関連付けた意見については、あまり変化がなかった。

(2) 評価シートの作成

評価規準を達成できていない理由や支援の改善案を焦点とした協議を行い、教員間の合意形成を図った。さらに、協議の結果を評価シート(図3)に整理することで、児童生徒の実態・評価と支援のつながりが明確になった。

IV 考察

授業検討会に学習評価を導入したことで、児童生徒の実態・評価に関する意見が増加した。学習評価に基づき支援方法を検討することで改善すべき場面が焦点化され、児童生徒の個別の目標に対する達成状況を確認するとともに、未達成の場合はその理由を考える機会となった。一方、実態・評価と支援方法を関連付けた意見はあまり変化がなく、教員個々が学習評価と支援の改善を繋げて考えることを促すには至らなかった。授業検討会における複数教員による評価の理由付けや意見のすり合わせ、評価に基づく支援の改善案検討、その内容を整理した評価シートによる共通理解は、教員研修の役割も果たしており、今後も効果的な実施方法について検討する必要があると考える。

(TAKIZAWA Ken, FUKU Mika, ERA Shukichi)

P: 実態把握, 目標設定	
D: 事前授業	C-A: 評価・改善① 授業検討会
D: 研究授業	C-A: 評価・改善② 授業検討会
D: 事後授業	C: 評価③

図1 授業づくりのPDCAサイクル

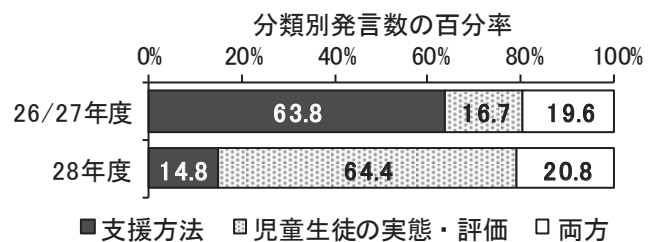


図2 授業検討会における意見(発言数)の変容

図3
平成28年度版
評価シートの記入例

育てたい力	評価規準	評価①	意見	改善
☆自分の役割を意識し、他者と協力して活動する力	・進行係に、「はい。」と返事をしたり、「できました。」と報告したりできたか。	×	<ul style="list-style-type: none"> ×: 相手意識はある。返事・報告はない。 ×: 返事・報告、ともにできていない。 ×: 一緒に活動する友達への意識はあるが、報告が難しい。 ×: 報告の言葉が聞こえない。受け身的。(活動中はいいい声かけがたくさん出ているが) ×: 報告していない。返事が聞こえない。 ×: 「はい」はあるが、「できました」はなし。 	<p>【報告への気付きを促す必要があるのでは】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できました」カードを用意し、準備・片付け係はそれを持って進行係に報告するようにする。 <p>【報告の必然性が感じられていないのでは】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行係は、「できました」カードを受け取ってから、次の手順に進むようにする。 <p>【役割遂行のポイントの理解できていないのでは】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上の流れを、ポイント説明場面で動画を視聴して確認する。